

1. 実況上の着目点

- ① ボッ海の寒冷渦の南東側を低気圧が北東進。500hPa 5820～5880mの正渦度極大域に沿って下層暖湿気の流入が東シナ海～韓国の南岸で強まり、対馬近海で非常に激しい降水を解析し、発雷を検知。
- ② 千島の東の高気圧西側の収束帯に対応して60mm前後の可降水量極大域が西日本にあり、高気圧の張り出しのため16日より西へ移動。太平洋側を中心に海からの対流雲がかかり、概ね激しい雨が断続。
- ③ 日本の東に寒冷渦があり、①の寒冷渦との間に位置する西～北日本は300hPa サーマルリッジ内。500hPaよりも上層は相当温位が概ね西・東日本で350K、北日本で340Kと暖かく、下層で厚い湿潤層を伴い850hPa相当温位が350K以上の地域で限定的に発雷している。



主要じょう乱解説図

- ④ 南シナ海～フィリピンの東では西風が卓越し、東風が卓越している小笠原近海～日本の南～沖縄近海との間が気圧の谷で、熱帯低気圧が発生しやすい大気環境場となっている。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、18日夜にかけて沿海州へ進む。対応するトラフが浅くなり、後続のトラフに対応する別の低気圧が発生するため、低気圧に向かう気流の収束と高気圧周辺の数値収束に対応するシアラインは19日には不明瞭となるが、850hPa相当温位345K以上の下層暖湿気が北日本日本海側にかかる。今のところ強い雨が断続する程度とみられるが、大気の状態が不安定となり激しい雨が降って大雨となる可能性にも留意。また、低気圧の南側では風が強く吹く所がある。北海道地方では19日は、強風、高波に注意。西日本では17日は、強風に注意。九州北部地方では17日の目先は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。
- ② 1項②の下層暖湿気の影響が大きい西日本を中心に西・東日本では18日にかけて、16日と同様に局地的に対流雲が発達し激しい雨の降る所がある。1項③のサーマルリッジは18日午後には東に抜け北・東日本では19日にかけて雷が発生しやすくなる一方、西日本では日本の南に中心をもつ上層高気圧の沈降場で安定化する傾向。19日にかけて西日本中心に猛烈な暑さがぶり返すので熱中症に注意。
- ③ 1項④の気圧の谷のフィリピンの東で、18日には熱帯低気圧が発生し、19日にかけて沖縄の南を西北西に進む。その北側の下層暖湿気に伴い沖縄地方では対流雲が発達し、雷を伴い激しい雨の降る所がある。上記①②の要因と合わせて、西日本では18日にかけて、北・東日本と沖縄地方では19日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

②波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。